

オオレイジンソウ

Aconitum umbrosum (Korsh.) Kom.
キンポウゲ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生育地点は1箇所である。前回の調査では取り上げられなかったが、福井県が分布限界であり、県内での生育地が亜高山に限られているため、県域絶滅危惧Ⅰ類とした。

分 布

北海道と本州中部以北の亜高山帯に分布。県内では嶺北地方で確認されている。

種の特徴

主として針葉樹林の林床や林縁に生える多年草。茎はおおむね直立し、高さ50～100cm。8月頃、総状花序に10～40個の淡黄色の花をつける。花弁の身部は長さ8mm以上あり、そのうち距は4mm以上あって長く伸びて巻く。

生育を脅かす要因

生育地である亜高山の植生の変化。温暖化による生育地の減少。園芸目的の採取。とくに、登山道整備での注意が必要である。

参考文献 佐竹義輔ほか（1982b）

市 町 別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

ミチノクフクジュソウ

Adonis multiflora Nishikawa et Koji Ito
キンポウゲ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

既知の生育地点は1箇所である。生育地が限られており、生育面積も小さく、野生での存続が危ぶまれるため、県域絶滅危惧Ⅰ類とした。現在、生育地では保全活動が行われている。

分 布

本州～九州に分布する。福井県内では勝山市で確認されている。

種の特徴

山地の林縁や落葉樹林下に生える多年草。葉は互生、3～4回羽状に分かれ、托葉がある。3～4月頃、茎の先端に1個の花をつける。花は直径3～4cm、花弁は多数で黄色、萼片は数枚で暗緑色。花弁が萼片より明らかに長い。

生育を脅かす要因

生育地の開発。植生遷移による生育環境の悪化。園芸目的の採取。とくに、生育地の管理放棄による減少が危ぶまれる。今後も保全活動が続けられることが期待される。

参考文献 佐竹義輔ほか（1982b）、福井県植物研究会（1997）

市 町 別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
															○		

フクジュソウ

Adonis ramosa Franch.
キンポウゲ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

今回の調査により新たに確認された。既知の生育地は1箇所である。生育地が限られており、生育基盤が脆弱であるため、県域絶滅危惧Ⅰ類とした。

分 布

北海道～九州に分布する。福井県内では大野市で確認されている。

種の特徴

主に落葉樹林下（県内では針葉樹植林林内）に生える多年草。葉は互生、3～4回羽状に分かれ、托葉がある。3～4月頃、茎の先端に1個の花をつける。花は直径3～4cm、花弁は多数で黄色、萼片は数枚で暗緑色。花弁は、萼片と同じ長さか、わずかに長い。

生育を脅かす要因

生育地の開発。園芸目的の採取。現在の生育地が急斜面の針葉樹植林縁であるため、林冠の発達による林内の暗化や自然かく乱が危険要因となる。

参考文献 佐竹義輔ほか（1982b）

市 町 別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	